

各農業関係機関長・団体長様

京都府病虫害防除所長
(公 印 省 略)

病虫害発生予察情報について

下記のとおり発表しましたので、送付します。

発生予察特殊報第 2 号

病虫害名 ナスコナカイガラムシ *Phenacoccus solani* Ferris
作物名 甘長とうがらし
発生地域 南丹地域

1 発生経過

- (1) 平成 1 8 年 9 月に亀岡市の施設栽培トウガラシで、コナカイガラムシの発生が見られた。本虫を採取し、神戸植物防疫所に同定を依頼した結果、本府では未発生の「ナスコナカイガラムシ」であることが確認された。
- (2) 本種は、海外では北米、中南米、ハワイ、ミクロネシア、南アフリカ等に分布している。我が国では、平成 1 2 年に高知県で初めての発生が確認されて以降、長崎県、愛知県、茨城県、奈良県で確認されている。

2 形態及び生態

- (1) 雌成虫は体長 3 ~ 5 mm の楕円形である。体色は灰色で、白色粉状のロウ物質で覆われる。体周縁の白色ロウ質分泌物の突起は 1 8 対あるが、短く目立たない。
- (2) 雄はみられず、単為生殖で卵胎生であり、コナカイガラムシ類に多く見られる卵のうは形成しない。

3 寄主植物

- (1) 海外では、広食性で雑草を含むキク科、ナス科、マメ科等 2 5 科の寄主植物が報告されている。
- (2) 我が国では、施設栽培のピーマン、シシトウ、ナス、キュウリ、キク、スイゼンジン、パンジーで発生が確認されている。

4 被害

主に葉、茎に寄生し、希に果実でも寄生がみられる。成幼虫の吸汁による生育阻害や排泄物にすす病が発生して、葉や果実などの汚れが問題となる。

5 防除対策

(1) 寄主範囲が広く、雑草類は増殖源となる可能性が高いので、施設内外の除草を徹底する。また、施設内へ観葉植物等を持ち込まない。

(2) **現在、トウガラシ類において本種に対する登録農薬はない。**

なお、ピーマンでは、チアメトキサム剤（アクタラ顆粒水和剤）がコナカイガラムシ類対象に登録がある。

6 その他

既発生県では、減農薬栽培のピーマンなどで本種が発生しており、本府でも減農薬栽培の施設野菜で注意が必要である。

ナスコナカイガラムシ



図1 ナスコナカイガラムシ雌成虫



図2 ナスコナカイガラムシ幼虫



図3 トウガラシ葉裏の寄生状況



図4 トウガラシ果実への寄生状況